

「趣味など余暇活動」 に関連する 集団感染事例

2020年11月25日作成

国立感染症研究所 実地疫学専門家養成コース（FETP）

同 感染症疫学センター

目的

- 本事例集は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染防止のために留意すべき事項について広く多くの方々に情報提供を行うことを目的としています
- 特定の個人の行動や場所の詳細をお伝えすることを意図したものではないことをご理解ください

解釈上の注意点

- ここで提示する場面以外にも感染機会の可能性がある事例があります
- 症例とは、症状の有無に関わらず検査陽性の人のことを指しています
- 主に症例自身からの聞き取りに基づいており、ご本人の記憶に依存しています
- 床面積、換気状況、衛生管理等、場面における環境やグループ内での人の配置、会話の頻度、友人関係、マスク着用状況等の詳細情報が調査により得られていない事例があります

方法

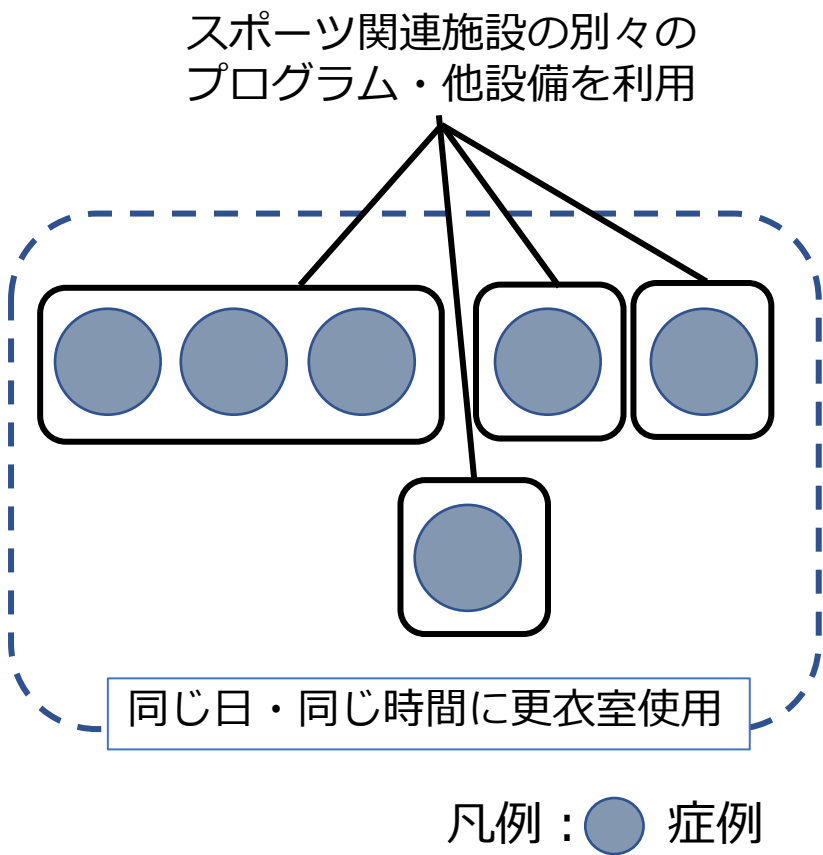
- 自治体からの支援依頼に基づき、国立感染症研究所感染症疫学センター職員および実地疫学専門家養成コース（FETP）の研修生等が2020年2月～10月30日までに調査支援を行った実地疫学調査事例のうち、「趣味など余暇活動」における集団感染事例*の振り返りを実施
- 調査から得られた知見や教訓を整理

*集団感染事例：1つの場所及び一定期間において2例以上の集積がみられたもの

結果

ケースA：スポーツ関連施設の事例

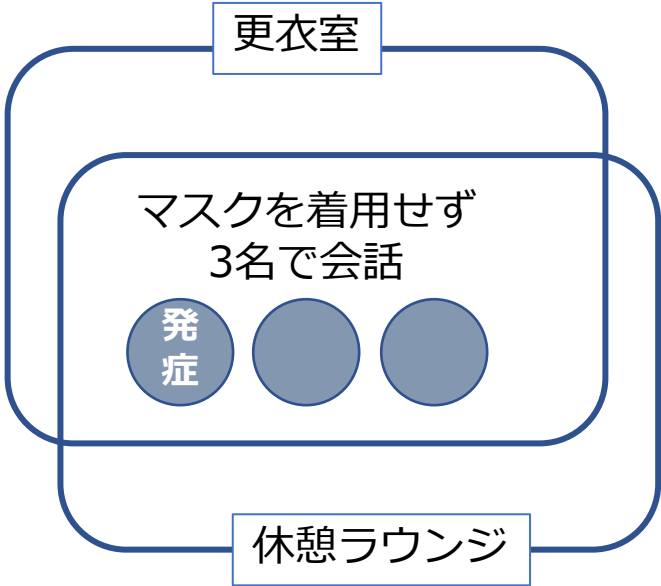
■ 伝播形式	利用者 → 利用者
■ 状況	・ 症例は6名で、全員同性 ・ 施設の共通の運動プログラム利用者が3名、別のプログラム利用者が1名ずつおり、施設の利用はあるものの、運動プログラムを全く利用していない症例が1名いた ・ 6名が共通で利用した日付、時間、場所は更衣室のみだった ・ 更衣室は利用者数が多く混雑していた（正確な利用者数は不明） ・ マスクは着用しておらず何名かは会話をしていた ・ 換気は不十分であった
■ 原因・教訓	・ 更衣室や休憩ラウンジでのマスク着用なしでの会話が感染に繋がった可能性がある 「教訓」 人が密になりやすい更衣室などの場所では、換気を徹底する、利用者数の制限による身体的距離を保つ、可能な限りマスクを着用し会話を控える



注)「一般社団法人日本フィットネス産業協会 フィットネス関連施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン 2020年5月25日」
発出前の事例

ケースB：スポーツ関連施設の事例

■ 伝播形式	利用者 → 利用者
■ 状況	・ 症例3名は友人同士で、全員同性 ・ 運動時は3名別々に行動していたが、その後更衣室及び休憩ラウンジで、マスクを着用せず会話をしていた ・ うち1名は発症後も利用していた ・ 換気状況や3名は不明
■ 原因・教訓	・ 更衣室や休憩ラウンジでのマスク着用なしでの会話が感染に繋がった可能性がある 「教訓」 ・ 更衣室や休憩ラウンジではマスク着用を徹底し、会話を控える ・ 症状がある場合は、利用しない ・ 運動後の更衣室やラウンジでの不要な滞在は避ける

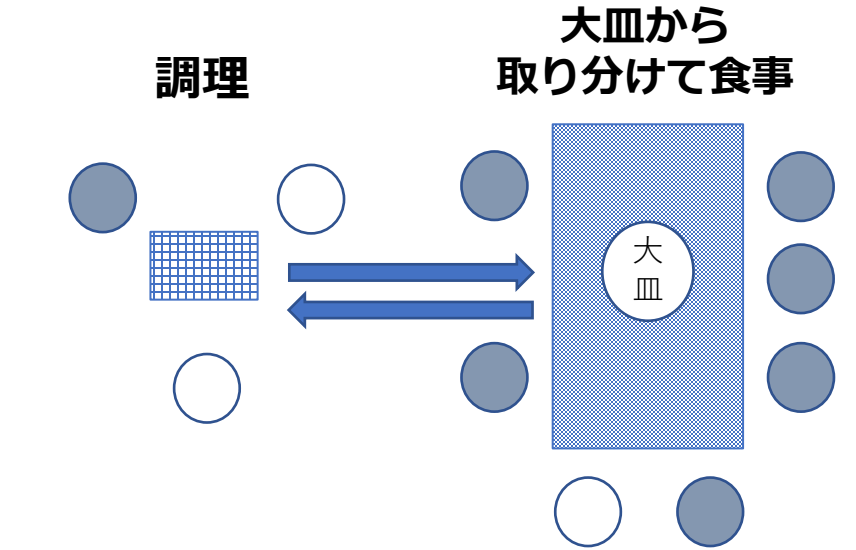


凡例：● 症例

注)「一般社団法人日本フィットネス産業協会 フィットネス関連施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン 2020年5月25日」発出前の事例

ケースC：屋外で調理し屋内で食べるバーベキューの事例

■ 伝播形式	参加者 → 参加者
■ 状況	・ 参加者10名程度のうち、半数以上が症例となった ・ バーベキューで調理された料理はテーブルに運び、大皿から各自が取り分けて喫食していた ・ 発症前の感染性を有する期間にある参加者がいた ・ 参加者は自由に移動し、調理、食事、会話をしていた ・ 参加者のマスク着用状況、手指消毒の実施状況、取り分け時の専用の箸等の使用状況、バーベキューの開催時間等は不明であった
■ 原因・教訓	・ 自分に症状がなくても他人に感染させることがある ・ 大皿の周囲に人が密集し、マスクを着用せずに会話をしたことで、飛沫への曝露が生じた可能性がある ・ マスクを着用せずに自由に移動し、複数の人と会話をしたことで、感染が拡大した可能性がある 「教訓」 ・ 食事中は特に身体的距離を保ち、移動は最小限にする ・ 身体的距離を保てるよう、食事はあらかじめ取り分ける ・ 食事をしていない時は、マスクをして会話を楽しむ



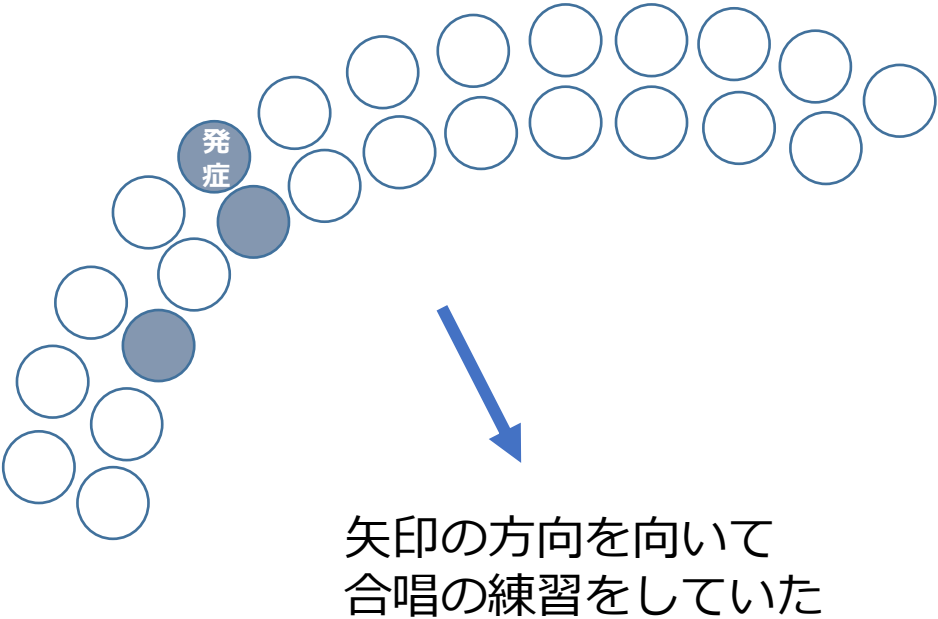
調理した料理は大皿に取り、テーブルへ移動
参加者は自由に移動可能

凡例：● 症例

注) バーベキューでは、屋内屋外どちらにおいても感染が起きた事例がある
・ 業界団体から対策ガイドラインの発出なし

ケースD：合唱団の練習の事例

■ 伝播形式	団員→団員
■ 状況	・ 20名程度の合唱団 ・ 密集してマスクを着用せず合唱の練習をしていた ・ 発症後も参加していた症例があり、その近くで練習していた団員が感染した ・ 窓は閉まっており、換気は不十分だった ・ 身体的距離を確保する工夫はしていなかった ・ 練習時間や互いの正確な距離、練習時以外の接触状況は不明
■ 原因・ 教訓	・ 換気の悪い密閉空間において、大人数且つ十分な身体的距離を保たずに、マスクを着用せず発声することで、感染のリスクが高まる可能性がある 「教訓」 ・ 歌う際には換気の良い空間で、マスクを着用し、身体的距離を十分確保する ・ 症状がある場合は、練習に参加しない

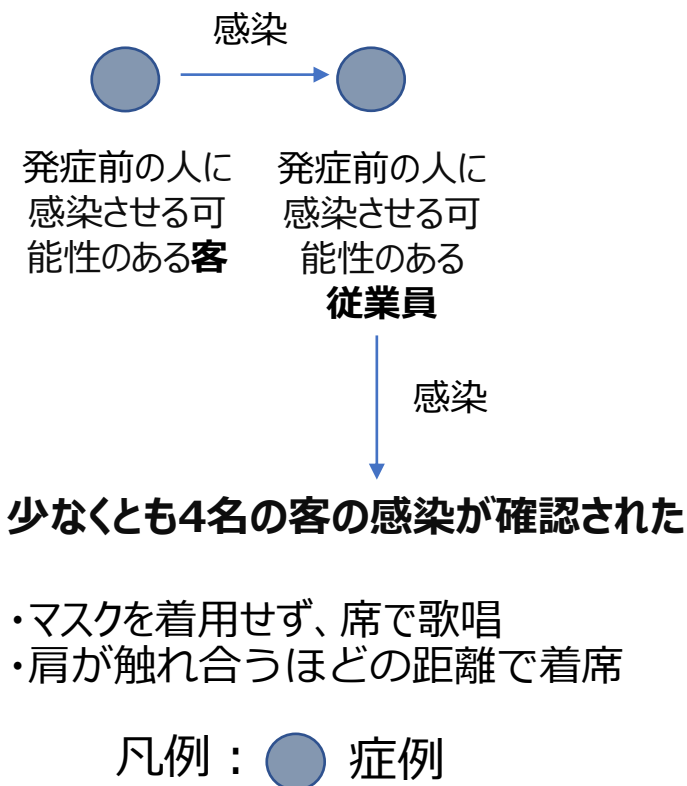


凡例：● 症例

注)「一般社団法人全日本合唱連盟 合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン 第1版2020年6月29日策定 第1.1版2020年9月8日更新」発出前の事例

ケースE：カラオケ設備のある飲食店の事例

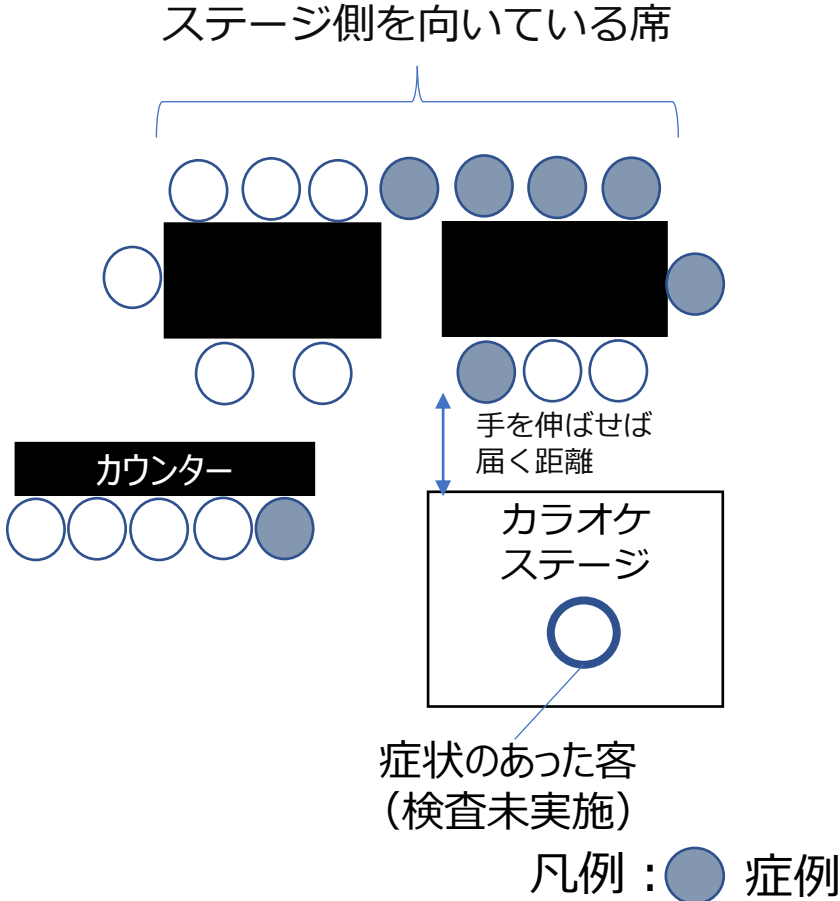
■ 伝播形式	客→従業員 従業員→客
■ 状況	・ 15名程度の客のうち、少なくとも4名の感染が確認された ・ 発症前の感染性を有する客から従業員が感染し、症状がなかったため勤務していた ・ 従業員も歌うことがあり、基本的にマスクを着用していたが、歌う時はマスクを外していた ・ 客は席で歌っていた ・ 客は店内でマスクを着用していなかった ・ 客の着席間隔の指定はなく、肩が触れ合う距離で利用していた客もいた ・ ドアや窓は閉まっており、換気は不十分だった ・ 従業員や利用客の家族にも感染が広がった
■ 原因・教訓	・ 換気の悪い空間において、十分な身体的距離を保たずに、マスクを着用せず発声することで、感染のリスクが高まる ・ 従業員が感染すると店舗が持続的な感染源になり、多くの症例が発生してしまう 《教訓》 ・ 症状がなくても感染している可能性を考慮して、食事をしていない時（会話時、歌う時）は、マスクを常に着用する



注)「一般社団法人日本カラオケボックス 教会連合会ほか カラオケボックス等の歌唱を伴う飲食の場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン、2020年5月25日策定」発出後の事例

ケースF：人に感染させる可能性のある客が店舗内にいたカラオケ設備のある飲食店の事例

■ 伝播形式	客→客
■ 状況	・複数の客の感染が確認された ・店内に咳をしていた客（検査未実施）がいた ・ステージに隣接した席及びステージ側を向いている席に症例の集積を認めた ・客席同士は肩が触れ合う程度の距離で、密集していた ・歌う人はカラオケステージへ移動していた ・症状のあった客もステージで歌っていた ・店内は比較的広く、席数は30席程度 ・店内の換気や客のマスク着用状況、会話の頻度は不明
■ 原因・教訓	・歌う人から飛沫を浴びることで、感染リスクが高まった可能性がある 「教訓」 ・症状があるときは外出を控える ・会話や歌う際にはマスクを着用する ・客同士や歌う人からの飛沫曝露を予防するため、パーティションの設置や間隔を空けた座席の配置、歌を聞いている客もマスク着用を実施

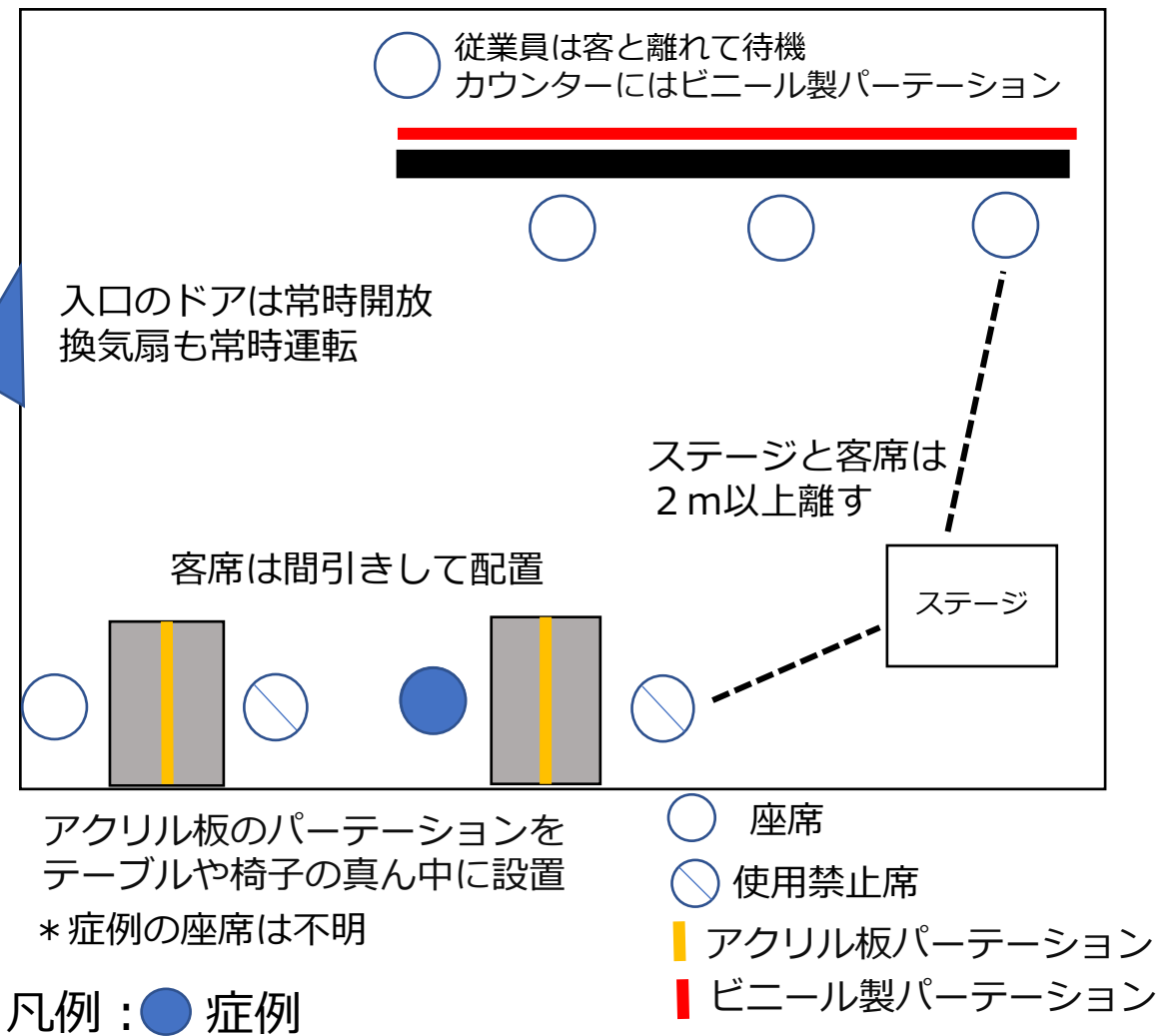


注）「一般社団法人日本カラオケボックス
教会連合会ほか カラオケボックス等の歌唱
を伴う飲食の場における新型コロナウイルス
感染拡大予防ガイドライン、2020年5月
25日策定」発出後の事例

参考：症例が利用したが、感染拡大を認めなかったカラオケ設備のある飲食店

注)「一般社団法人日本カラオケボックス教会連
合会ほか カラオケボックス等の歌唱を伴う飲食の
場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイド
ライン、2020年5月25日策定」発出後の事例

■ 伝播形式	感染伝播なし
■ 状況	- 客の症例は1名 - 換気扇を常時稼働し、入口を常時開放 - 来店時に客の体温測定と連絡先を記録 - 客席は半分に間引きして使用 - 客席に×印やアクリル板の設置を実施 ●従業員： - 常にマスク着用し、飲食物提供時以外は客と離れて待機 ●客： - 歌唱時と飲食時以外はマスク着用 - 歌唱者はステージで歌い、ステージと客席は2m以上離す
■ 原因・教訓	《教訓》 飲食を提供するカラオケ店で、客、従業員とともに意識的に複数の感染防止策を行うことで、感染拡大を防ぐことができた



結果

事例	場面	推定感染経路	発生状況	推定感染原因
A	スポーツ関連施設	利用者→利用者	スポーツ関連施設において6名の症例が発生 6名の共通利用日、時間、場所は更衣室だった	・マスク着用なし、換気不良、人が密な空間での会話
B	スポーツ関連施設	利用者→利用者	スポーツ関連施設において3名の症例が発生 3名は更衣室や休憩ラウンジで会話していた。3名のうち1名は利用時に発症していた	・発症後の施設利用 ・マスク着用なしでの会話
C	バーベキュー	参加者→参加者	10名程度が参加し半数以上の症例が発生 調理した料理を大皿から各自取り分けて食事していた	・大皿周囲の人の密集、マスク着用なしでの会話 ・自由に移動することによる複数の人との会話
D	合唱練習	団員→団員	20名程度の合唱団の練習で症例が発生 発症した団員が練習に参加し、近くで練習した団員が感染	・発症後の練習参加 ・換気不良、大人数かつ人が密な空間におけるマスクなしでの発声
E	カラオケ設備のある飲食店	客→従業員 従業員→客	複数の客の症例が発生 別の日に客から感染した従業員が勤務していた 客は席で密集した状態でマスクを着用せず歌っていた 従業員もマスクを着用せず歌う事があった	・換気が悪く人が密集した場所における、マスク着用なしでの発声
F	カラオケ設備のある飲食店	客→客	複数の客の症例が発生 ステージの近くやステージ側を向いた席に着席した客が感染 症状のある客がステージで歌っていた	・人が密集した空間での飲食や会話 ・歌う事で発生した飛沫への曝露

まとめと考察

- スポーツ関連施設2事例、バーベキュー1事例、合唱練習・カラオケ設備のある飲食店3事例の計6事例の趣味や余暇での活動における集団感染事例を認めた
- スポーツ関連施設の事例では、運動後に更衣室や休憩ラウンジなどで過ごす際に、マスク着用なしで会話をすることが感染拡大に繋がったと考えられた
- バーベキュー事例では、マスクを着用しないまま、大皿の周囲に人が密集して会話をしたり、移動して複数の参加者と会話をしたことで、感染拡大に繋がったと推察された
- 合唱練習・カラオケ設備のある飲食店の事例では、身体的距離を確保せずに人が密集した状況において、マスクなしでの会話や歌唱をすることは、感染拡大の可能性が高まると考えられた
 - ➡感染拡大がみられなかったカラオケ設備のある飲食店の事例では、①客席はステージから距離をとる、②客席間隔をあける、③パーテーションを設置する、④換気を行う、等の工夫が行われており、感染拡大防止の一助となったと考えられた
- また、症状がある中での趣味や余暇での活動への参加が、集団へのウイルス持ち込み経路として考えられた事例が複数あった

提言

一般的なCOVID-19の感染対策であるマスク着用、手指衛生、従業員の健康管理、身体的距離の確保、施設のこまめな換気の実施等に加え、今回の事例を踏まえて以下を提言する

【趣味など余暇活動を行う人】

- 更衣室や店内など、換気不良かつ密になりがちな場所では、マスク着用を徹底する
- 食事や会話、歌唱時は、互いの身体的距離を十分に取り、密集しないようにする
- 食事後の会話や歌唱時、他人の歌を聞いている時などにはマスク着用を徹底する
- 症状*がある場合は趣味や余暇での活動に参加しない
- 無症状でも人に感染させる可能性があることを意識し、常に上記の感染対策を実施する

【サービス提供者】

- 人が密集するのを避けるため、料理の大皿での提供を避け、個別の皿に分ける
- 歌う場所と客席の距離をとり、密集しないよう客席配置・店内レイアウトを工夫する
- パーテーションの設置等飛沫対策を行う
- 客の入店時に体温測定や症状の確認などを行う

サービス提供者の感染対策については、業界毎のガイドライン**も参照されたい

*発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など

**一般社団法人日本フィットネス産業協会「フィットネス関連施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン」、一般社団法人全日本合唱連盟「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」、(一社)日本カラオケボックス協会連合会等「カラオケボックス等の歌唱を伴う飲食の場における 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」など

謝辞

実地疫学調査にご協力いただいた
自治体および関係各機関の皆様に
深謝致します